

医学生を対象にした聴診シミュレータを用いた呼吸音聴診実習の教育効果

有村保次^{1,2)}、小松弘幸^{2,3)}、柳 重久¹⁾、松元信弘¹⁾、芦谷淳一¹⁾、岡山昭彦²⁾、林 克裕³⁾、中里雅光¹⁾

1) 宮崎大学医学部附属病院第三内科

2) 宮崎大学医学部附属病院卒後臨床研修センター

3) 宮崎大学医学部医学教育改革推進センター

背景:現在、多くの医学部で臨床技能向上のためシミュレータの設置が進んでいるが、その教育効果のエビデンスは少ない。今回、聴診シミュレータ (Mr. Lung) を用いた呼吸音聴診実習の教育効果を検討した。

方法:平成 21 年度本学 5 年生を対象に、当科実習時に呼吸器専門医による講義と Mr.Lung を用いた実技の計 90 分の聴診実習を行い、実習前後で、副雑音 (fine crackle, coarse crackle, wheeze, rhonchi) の正診率を比較した。また、聴診経験やシミュレーション教育に対する学生の意識を自記式質問票で調査した。

結果:実習前の正診率は、全て 30%以下で rhonchi が最も低かった。過去の聴診経験は、fine crackle が 72%と最も多かったが、正診率は 23%と低かった。実習後の正診率は全て 80%以上と有意に上昇した。質問票調査で、約 90%の学生が全ての医師に呼吸音聴診能力は必要であり、シミュレータは技能の習得に有効であると回答した。

結論:今回の検討は前後比較であるが、聴診シミュレータを用いた呼吸音聴診実習がより高い教育効果を生み、技能習得に効果的であることが示唆された。